

豊見城市

介護予防・日常生活圏域二一ズ調査結果報告書

令和5年3月

豊見城市

目 次

I. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

1. 調査の目的	1
2. 調査の概要	1
3. 集計について	1
4. リスク判定方法	2

II. 調査結果

1. 回答者の基本属性等	7
2. 体を動かすことについて	12
3. 食べることについて	16
4. 毎日の生活について	24
5. 地域での活動について	29
6. たすけあいについて	32
7. 健康について	36
8. 認知症にかかる相談窓口の把握について	50
9. その他	51
10. リスク者等の状況	60

III. 調査票

IV. 単純集計表【第8期・第9期比較】

1. 概要	91
2. 基本情報	91
3. あなたのご家族や生活状況について	92
5. 食べることについて	97
6. 毎日の生活について	100
7. 地域での活動について	103
8. たすけあいについて	106
9. 健康について	108
10. 認知症にかかる相談窓口の把握について	112
11. その他（独自の設問）	113
12. リスク判定	119

I. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

1. 調査の目的

老人福祉法第 20 条の 8 の規定等に基づく高齢者保健福祉計画策定する上で、高齢者の生活状況や活動状況などの必要な基礎資料を得るとともに、超高齢社会に対する意識や介護保険サービスに対する意向などの実態を把握することを目的としています。

2. 調査の概要

調査実施期間：令和 5 年 1 月 26 日～令和 5 年 3 月 14 日

調査方法：郵送による配布・回収

調査対象者：市内在住の 65 歳以上の高齢者（要介護 1～5 の認定者以外）

回収状況：配布数：1,800 件 回収数：982 件（回収率：54.6%）

調査内容：厚生労働省より示された日常生活圏域ニーズ調査設問項目をベースに独自項目を追加して作成

3. 集計について

- 各設問に示している「回答者実数」は、全員に回答してもらう設問では有効回答数と同数ですが、回答者を限定している設問では、その条件に合う人のみが対象となるため、有効回答数を下回っています。
- 集計では、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、比率を合計しても 100.0%にならない場合があります。
- 地区別や性別、年代別といった「クロス集計結果」については、無回答を除いて表示しています。
- 複数回答の設問については、回答数の合計が回答者実数を上回ることがあります。このため、比率の合計が 100%を超える場合があります。
- 集計によっては、回答者実数が 10 人未満と非常に少ない場合もあり、このような集計は参考程度として見る必要があります。
- グラフや表では、選択肢を一部省略して表記している場合があります。（選択肢が長い場合など）

4. リスク判定方法

本報告書では、調査票の各設問より、運動機能低下や転倒リスクなどの「身体機能リスク判定」を行い、介護に陥りやすい高齢者の状態分析を行っています。各リスクと判定方法は以下のとおりです。

(1) 運動器機能の低下

下記の設問で3問以上、該当する選択肢(網掛け箇所)が回答された場合は、リスクありと判定されます。

設問内容	選択肢
階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
15分位続けて歩いていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない
転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である 2. やや不安である 3. あまり不安でない 4. 不安でない

(2) 転倒リスク

下記の設問で、該当する選択肢(網掛け箇所)が回答された場合は、リスクありと判定されます。

設問内容	選択肢
過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない

(3) 閉じこもり傾向

下記の設問で、該当する選択肢（網掛け箇所）が回答された場合は、リスクありと判定されます。

設問内容	選択肢
週に1回以上は外出していますか	1. ほとんど外出しない 2. 週1回 3. 週2～4回 4. 週5回以上

(4) 低栄養傾向

下記の設問で、BMIが18.5未満となり、該当する選択肢（網掛け箇所）が回答された場合は、リスクありと判定されます。

設問内容	選択肢
身長・体重	身長・体重から算出されるBMI（体重(kg)÷{身長(m)×身長(m)}）が18.5以下の場合、低栄養が疑われる
6ヶ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	1. はい 2. いいえ

(5) 口腔機能の低下

下記の設問で2問以上、該当する選択肢（網掛け箇所）が回答された場合は、リスクありと判定されます。

設問内容	選択肢
半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい 2. いいえ
お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい 2. いいえ
口の渇きが気になりますか	1. はい 2. いいえ

(6) 認知機能の低下

下記の設問で、該当する選択肢（網掛け箇所）が回答された場合は、リスクありと判定されます。

設問内容	選択肢
物忘れが多いと感じますか	1. はい 2. いいえ

(7) I A D L（手段的自立度）の低下

下記の設問で、5点満点中、3点以下を「低下」として評価します。

I A D Lは、外出や買物など、自立した日常生活を送るために必要な能力の判断基準となります。

設問内容	選択肢						
バスや電車を使って1人で外出していますか （自家用車でも可）	<table><tr><td>1. できるし、している</td><td>1点</td></tr><tr><td>2. できるけどしていない</td><td>1点</td></tr><tr><td>3. できない</td><td>0点</td></tr></table>	1. できるし、している	1点	2. できるけどしていない	1点	3. できない	0点
1. できるし、している	1点						
2. できるけどしていない	1点						
3. できない	0点						
自分で食品・日用品の買物をしていますか	<table><tr><td>1. できるし、している</td><td>1点</td></tr><tr><td>2. できるけどしていない</td><td>1点</td></tr><tr><td>3. できない</td><td>0点</td></tr></table>	1. できるし、している	1点	2. できるけどしていない	1点	3. できない	0点
1. できるし、している	1点						
2. できるけどしていない	1点						
3. できない	0点						
自分で食事の用意をしていますか	<table><tr><td>1. できるし、している</td><td>1点</td></tr><tr><td>2. できるけどしていない</td><td>1点</td></tr><tr><td>3. できない</td><td>0点</td></tr></table>	1. できるし、している	1点	2. できるけどしていない	1点	3. できない	0点
1. できるし、している	1点						
2. できるけどしていない	1点						
3. できない	0点						
自分で請求書の支払いをしていますか	<table><tr><td>1. できるし、している</td><td>1点</td></tr><tr><td>2. できるけどしていない</td><td>1点</td></tr><tr><td>3. できない</td><td>0点</td></tr></table>	1. できるし、している	1点	2. できるけどしていない	1点	3. できない	0点
1. できるし、している	1点						
2. できるけどしていない	1点						
3. できない	0点						
自分で預貯金の出し入れをしていますか	<table><tr><td>1. できるし、している</td><td>1点</td></tr><tr><td>2. できるけどしていない</td><td>1点</td></tr><tr><td>3. できない</td><td>0点</td></tr></table>	1. できるし、している	1点	2. できるけどしていない	1点	3. できない	0点
1. できるし、している	1点						
2. できるけどしていない	1点						
3. できない	0点						

(8) うつ傾向

下記の設問で1問以上、該当する選択肢（網掛け箇所）が回答された場合は、リスクありと判定されます。

設問内容	選択肢
この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	1. はい 2. いいえ
この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	1. はい 2. いいえ

(9) 知的能動性の低下

下記の設問で、4点満点中、2点以下を「低下」として評価します。

知的能動性は、探索、創作、余暇活動などの知的な活動をすることです。

設問内容	選択肢
年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか	1. はい 1点 2. いいえ 0点
新聞を読んでいますか	1. はい 1点 2. いいえ 0点
本や雑誌を読んでいますか	1. はい 1点 2. いいえ 0点
健康についての記事や番組に関心がありますか	1. はい 1点 2. いいえ 0点

(10) 社会的役割の低下

下記の設問で、4点満点中、3点以下を「低下」として評価します。

社会的役割は、仲間と会食の機会を持ったり、地域の活動に参加したりするなど、地域で社会的な役割を果たすことです。

設問内容	選択肢
友人の家を訪ねていますか	1. はい 1点 2. いいえ 0点
家族や友人の相談にのっていますか	1. はい 1点 2. いいえ 0点
病人を見舞うことができますか	1. はい 1点 2. いいえ 0点
若い人に自分から話しかけることがありますか	1. はい 1点 2. いいえ 0点

Ⅱ. 調査結果

1. 回答者の基本属性等

(1) 性別、年齢

調査対象者の性別は、「男性」が 44.6%、「女性」が 55.4%で、女性の方が多くなっています。

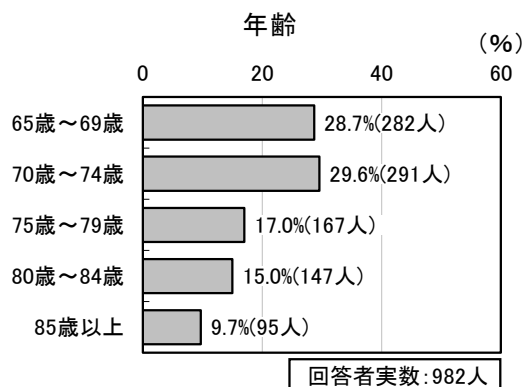
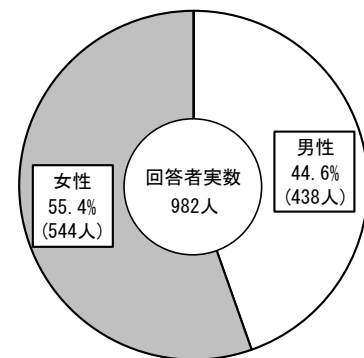
年齢は、「65 歳～69 歳」が 28.7%、「70 歳～74 歳」が 29.6%で、これらを合わせた前期高齢者(65 歳以上 75 歳未満)の占める割合が 58.4%と、半数を超えています。また、前期高齢者は男性の方が多く、後期高齢者は女性の方が多くなっています。

年齢について圏域別に見ると、東部・西部ともに前期高齢者が多くなっています。

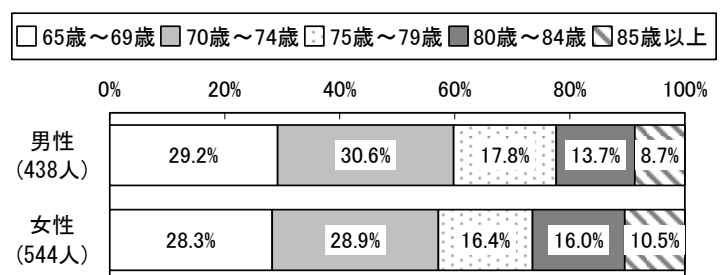
年齢（性別、圏域別）

	回答者実数	前期高齢者	後期高齢者
全体数	982 人	58.4% (573 人)	41.6% (409 人)
男性	438 人	59.8% (262 人)	40.2% (176 人)
女性	544 人	57.2% (311 人)	42.8% (233 人)
東部	498 人	57.6% (287 人)	42.4% (211 人)
西部	484 人	59.1% (286 人)	40.9% (198 人)

性別

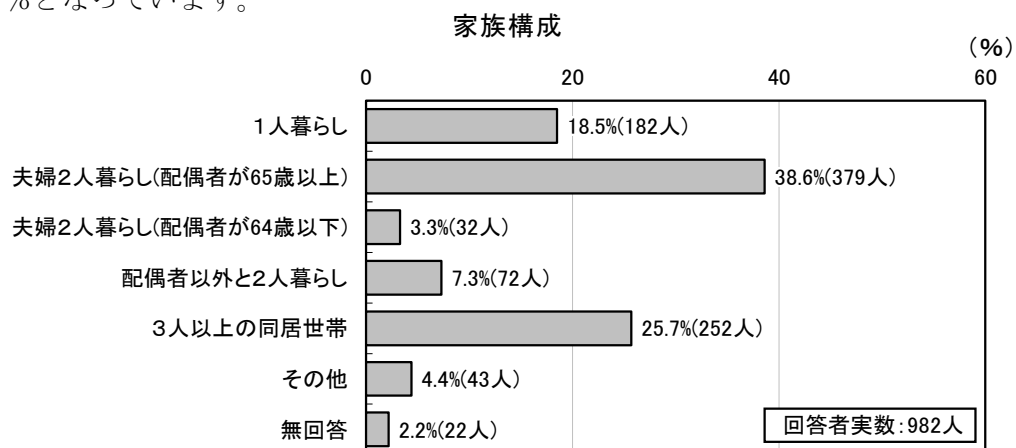


年齢（性別）

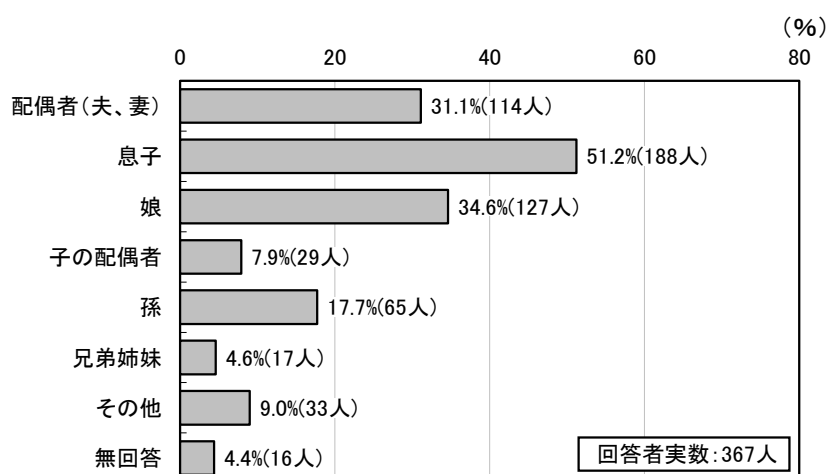


(2) 家族構成

家族構成を見ると、「夫婦2人暮らし(配偶者が65歳以上)」が38.6%(379人)と最も高く、次いで、「3人以上の同居世帯」が25.7%(252人)、「1人暮らし」が18.5%(182人)となっています。「配偶者以外と2人暮らし」、「3人以上の同居世帯」、「その他」の同居人については、「息子」が51.2%と最も高く、次いで、「娘」が34.6%、「配偶者(夫、妻)」が31.1%、「孫」が17.7%となっています。

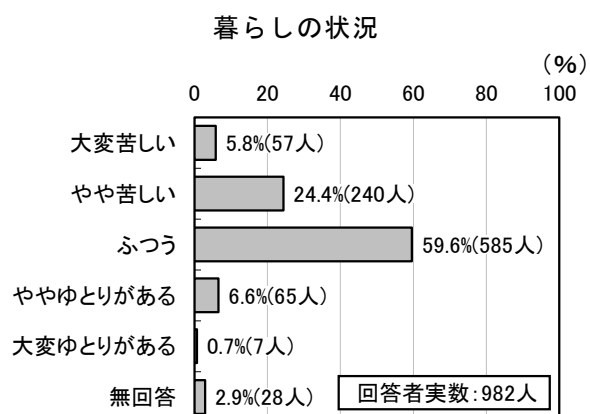


「配偶者以外と2人暮らし」、「3人以上の同居世帯」、「その他」の同居人



(3) 暮らしの状況（経済的に見て）

経済的な面での暮らしの状況を尋ねました。最も高いのは「ふつう」の59.6%と6割近くを占めています。「大変苦しい」が5.8%、「やや苦しい」が24.4%であり、これらを合わせると「苦しい」の回答が30.2%と3割を占め、経済的な負担を感じている人も多いことがわかります。



性別で見ると、回答の構成比に男女差はありませんが、「普通」という回答は女性の方が若干高く、また生活が“苦しい”という回答は男性の方で僅かに高くなっています。

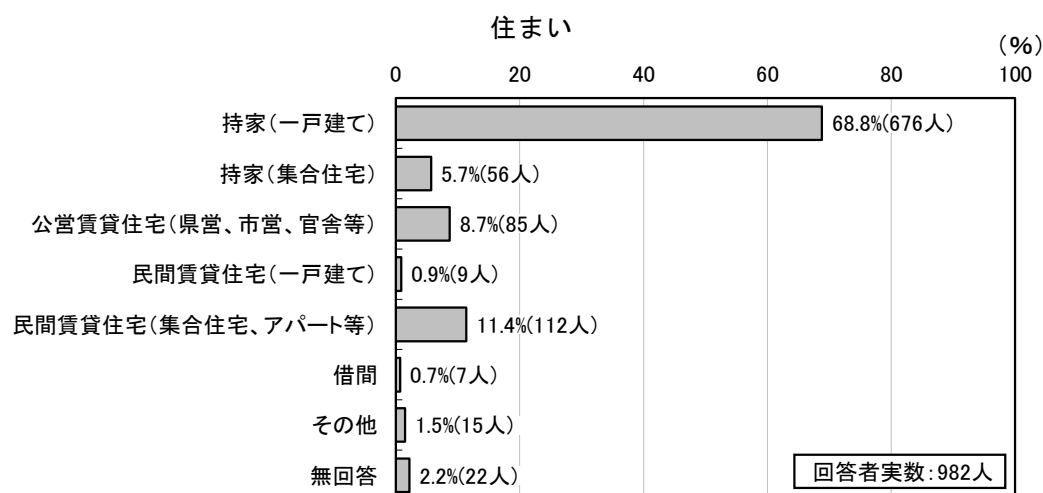
年齢別では、“苦しい”は若いほど比率が高く「65歳～69歳」では36.9%を占め、年齢が上になると比率は低くなり、「80歳～84歳」では25.9%、「85歳以上」は21.1%となっています。

暮らしの状況（性別、年齢別）

	回答者 実数	大変苦しい	やや苦しい	ふつう	ややゆとり がある	大変ゆとり がある	無回答	苦しい
男性	438人	5.7% (25人)	25.3% (111人)	58.0% (254人)	7.3% (32人)	0.9% (4人)	2.7% (12人)	31.1% (136人)
女性	544人	5.9% (32人)	23.7% (129人)	60.8% (331人)	6.1% (33人)	0.6% (3人)	2.9% (16人)	29.6% (161人)
65歳～69歳	282人	7.8% (22人)	29.1% (82人)	53.5% (151人)	6.4% (18人)	0.4% (1人)	2.8% (8人)	36.9% (104人)
70歳～74歳	291人	7.6% (22人)	22.3% (65人)	60.5% (176人)	6.5% (19人)	1.4% (4人)	1.7% (5人)	29.9% (87人)
75歳～79歳	167人	3.0% (5人)	25.7% (43人)	58.1% (97人)	9.6% (16人)	0.0% (0人)	3.6% (6人)	28.7% (48人)
80歳～84歳	147人	3.4% (5人)	22.4% (33人)	63.9% (94人)	6.1% (9人)	0.0% (0人)	4.1% (6人)	25.9% (38人)
85歳以上	95人	3.2% (3人)	17.9% (17人)	70.5% (67人)	3.2% (3人)	2.1% (2人)	3.2% (3人)	21.1% (20人)

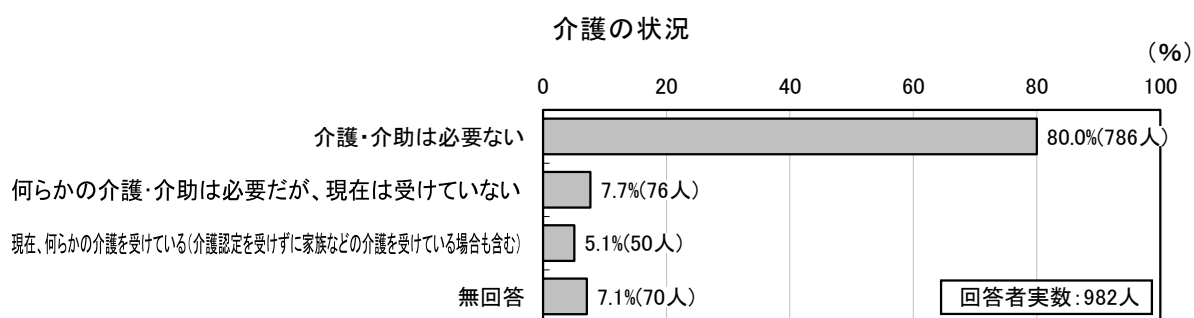
(4) 住まい

住まいについては、「持家（一戸建て）」が68.8%で圧倒的に高くなっています。



(5) 介護の状況

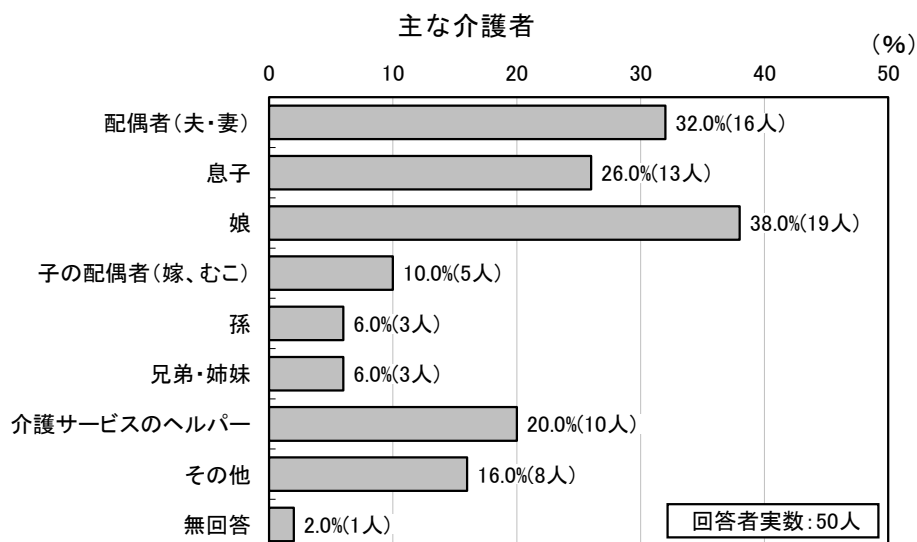
介護について見ると、「介護・介助は必要ない」が 80.0%となっています。本調査の対象者が要介護1～5を除いた在宅の高齢者（一般高齢者と要支援者）であることから、介護を必要とする割合は低いものと考えられます。比較的元気な高齢者への調査ではありますが、12.8%が介護や介助を必要としており、介護認定を受けていないが介護を必要としている人が一定数見られることがわかります。また、介護が必要で介護を受けている割合は、年齢が上がるとともに上昇する傾向となっており、80歳以上になると介護や介助が必要とする割合は急増します。



介護の状況（年齢別）

	回答者実数	介護・介助は必要ない	何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない	現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）	無回答
65歳～69歳	282人	90.1% (254人)	3.5% (10人)	2.5% (7人)	3.9% (11人)
70歳～74歳	291人	85.9% (250人)	4.8% (14人)	2.1% (6人)	7.2% (21人)
75歳～79歳	167人	82.6% (138人)	6.0% (10人)	3.6% (6人)	7.8% (13人)
80歳～84歳	147人	63.9% (94人)	15.0% (22人)	8.8% (13人)	12.2% (18人)
85歳以上	95人	52.6% (50人)	21.1% (20人)	18.9% (18人)	7.4% (7人)

「現在、何らかの介護を受けている」と回答した人の主な介護者をみると、「娘」が 38.0%、次いで、「配偶者（夫・妻）」が 32.0%、「息子」が 26.0%の順となり、近親者の割合が高くなっています。

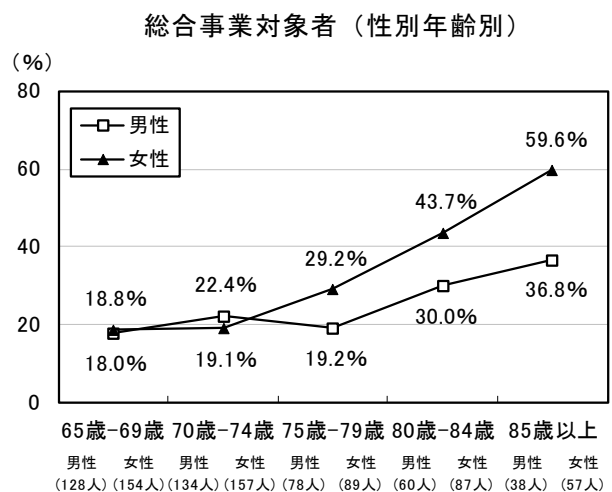
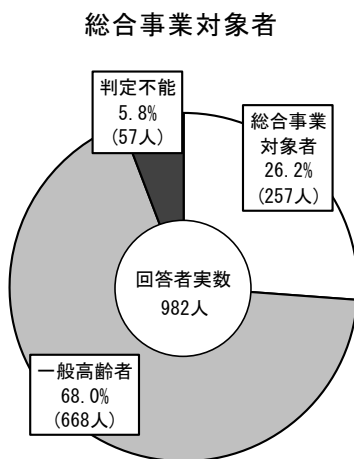


(6) 総合事業対象者

調査結果より身体機能低下者を集計し、これを総合事業対象者として要介護状態に陥るおそれのある人の把握を行いました。（総合事業の対象者にも概ね相当すると考えられるため）

総合事業対象者について見ると、対象となる人は 26.2%となっています。

性別年齢別で見ると、70 歳～74 歳を除き男性に比べて女性の方が高く、また年齢が上がるとともに上昇しており、75 歳以上になると男女で差が開き始め、女性では 85 歳以上で 59.6%と大半を占めています。



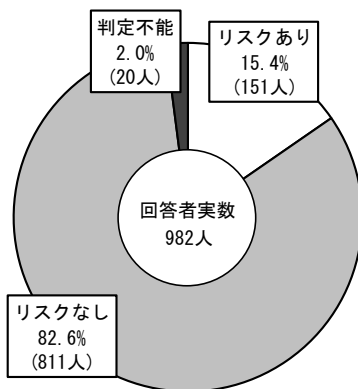
2. 体を動かすことについて

(1) 運動器の機能低下者（リスク者）

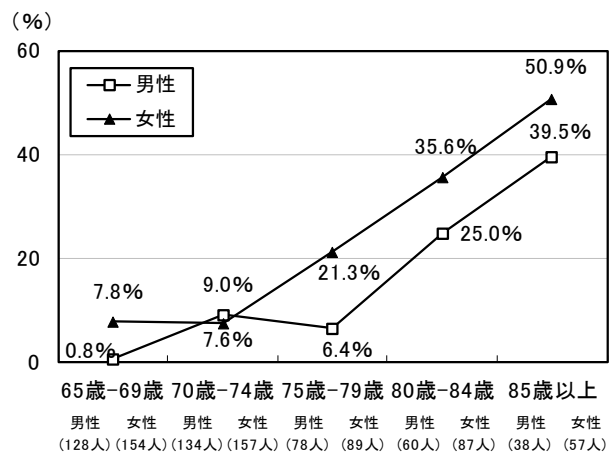
運動器のリスク者は 15.4% となっています。

性別年齢別で見ると、男性に比べて女性の方が高く、また年齢が上がるとともにリスク者の割合が上昇しています。男性では 75～79 歳では 6.4% ですが、80 歳～84 歳より急激に増え、85 歳以上では 39.5% を占め、女性では 70 歳～74 歳で 7.6%、75～79 歳より急激に増え、85 歳以上では 50.9% と 5 割を占めています。

運動器の機能低下者



運動器の機能リスク（性別年齢別）

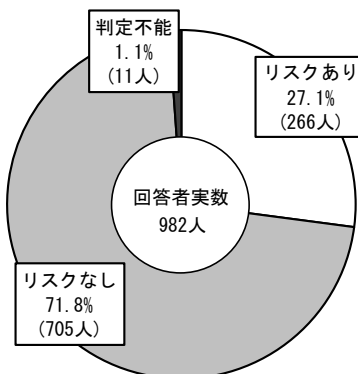


(2) 転倒リスク者

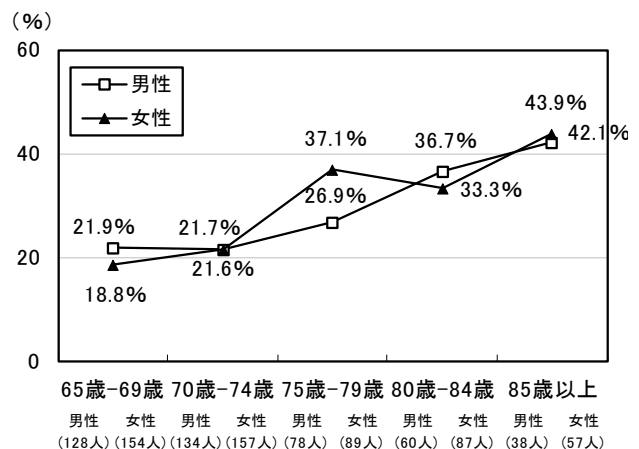
転倒のリスク者は 27.1% となっています。

性別年齢別で見ると、男性・女性ともに 70 歳～74 歳までは 2 割弱ですが、85 歳以上では男性が 42.1%、女性が 43.9% とそれぞれ 4 割を超えています。

転倒リスク者



転倒リスク者（性別年齢別）



転倒に対する不安について、転倒リスクの有無別に見ると、「リスクあり」の方で不安を感じている方が多く、特に「とても不安である」は「リスクあり」で 33.1%、「リスクなし」で 10.5%とその差が大きくなっています。

転倒に対する不安はあるか（転倒リスク別）

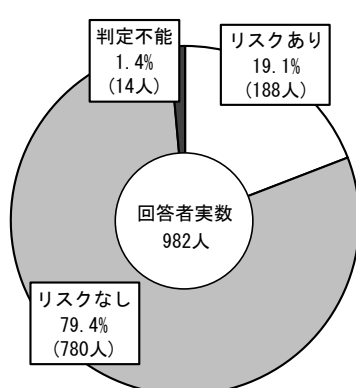
	回答者実数	とても不安である	やや不安である	あまり不安でない	不安でない	無回答
リスクあり	266 人	33.1% (88 人)	42.1% (112 人)	18.0% (48 人)	6.4% (17 人)	0.4% (1 人)
リスクなし	705 人	10.5% (74 人)	33.2% (234 人)	28.4% (200 人)	26.7% (188 人)	1.3% (9 人)

(3) 閉じこもり傾向（リスク者）

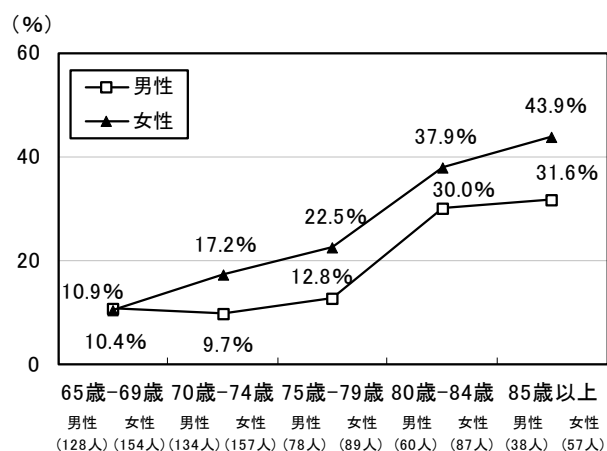
閉じこもりのリスク者は 19.1%となっています。

性別年齢別で見ると、年齢が上がるとともにリスク者の割合は上昇し、男性より女性が閉じこもりリスクが強くなっています。80 歳～84 歳では男性・女性ともに比率が高くなり、85 歳以上でゆるやかに上昇し、男性が 31.6%、女性が 43.9%となっています。

閉じこもり傾向



閉じこもりリスク者（性別年齢別）



外出回数の減少について、閉じこもりリスクの有無別に見ると、「とても減っている」は、「リスクあり」が 25.0%、「リスクなし」が 2.4%、「減っている」でも「リスクあり」が 41.5%、「リスクなし」が 24.6%となり、それぞれ 20 ポイント程度差があります。

昨年と比べて外出の回数が減っているか（閉じこもり傾向別）

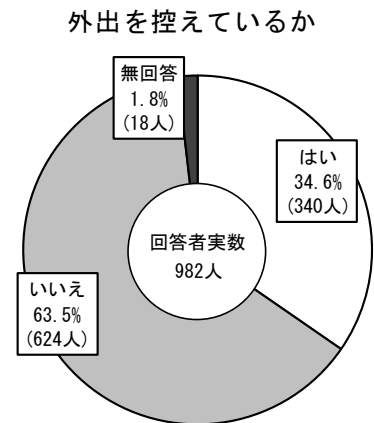
	回答者実数	とても減っている	減っている	あまり減っていない	減っていない	無回答
リスクあり	188 人	25.0% (47 人)	41.5% (78 人)	19.1% (36 人)	12.2% (23 人)	2.1% (4 人)
リスクなし	780 人	2.4% (19 人)	24.6% (192 人)	27.3% (213 人)	45.0% (351 人)	0.6% (5 人)

(4) 外出の状況

①外出を控えているか

外出を控えているか尋ねたところ、「はい」が34.6%、「いいえ」が63.5%となっています。

年齢別に見ると、外出を控えている人は年齢が上がるとともに高くなっており、65歳～69歳では2割半ばですが、80歳～84歳では4割半ば、85歳以上では6割に達しています。

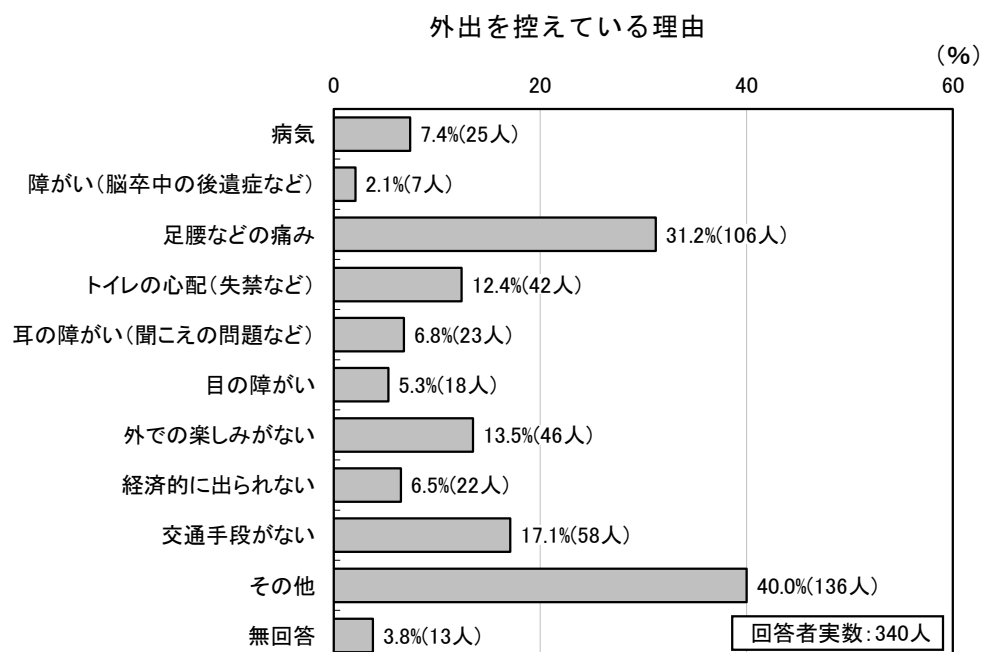


外出を控えているか（年齢別）

	回答者実数	はい	いいえ	無回答
65 歳～69 歳	282 人	24.5% (69 人)	74.5% (210 人)	1.1% (3 人)
70 歳～74 歳	291 人	31.6% (92 人)	67.0% (195 人)	1.4% (4 人)
75 歳～79 歳	167 人	31.7% (53 人)	64.1% (107 人)	4.2% (7 人)
80 歳～84 歳	147 人	46.9% (69 人)	51.7% (76 人)	1.4% (2 人)
85 歳以上	95 人	60.0% (57 人)	37.9% (36 人)	2.1% (2 人)

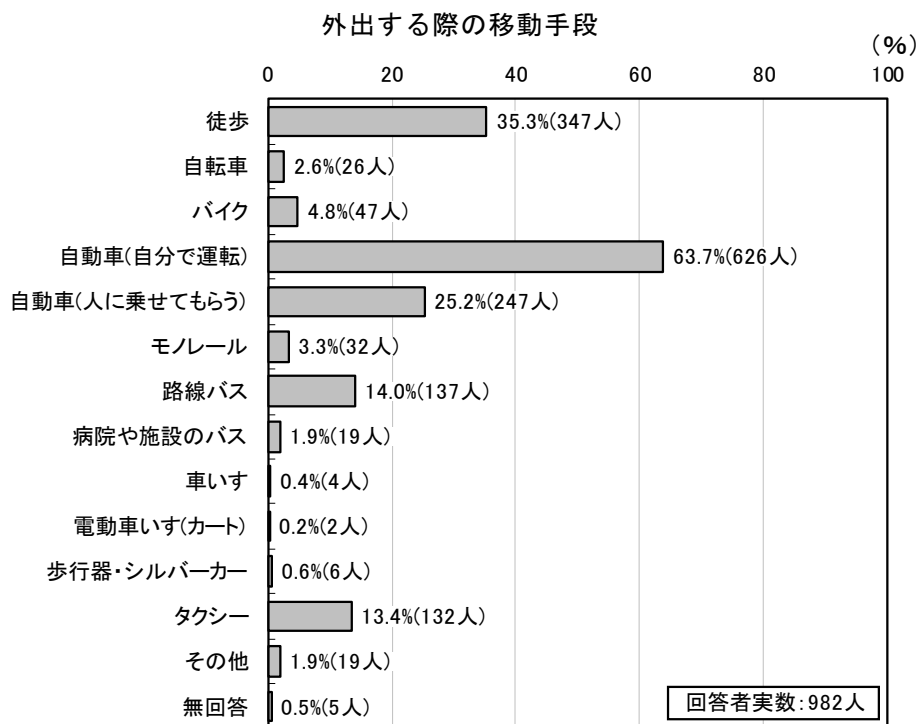
②外出を控えている理由

外出を控えている理由を見ると、「足腰などの痛み」が31.2%、「交通手段がない」が17.1%、「外での楽しみがない」が13.5%、「トイレの心配(失禁など)」が12.4%、となっています。また、今回の調査では「その他」が40.0%と選択肢の中では最も高くなっていました。内容としては、新型コロナウイルス感染予防のために外出を控えたという声が多く、新型コロナの影響が外出控えに大きな影響を与えていることがわかります。



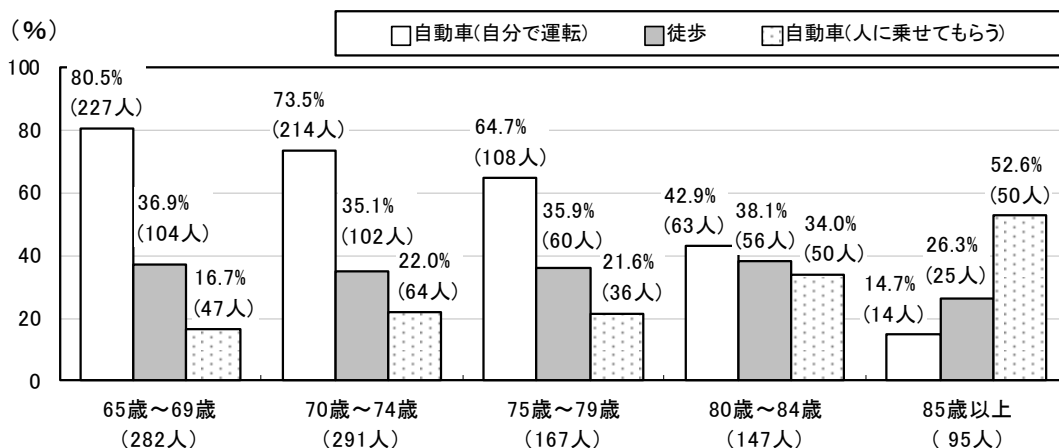
③外出する際の移動手段

外出する際の移動手段としては、「自動車(自分で運転)」が 63.7%と最も高く、次いで、「徒歩」が 35.3%、「自動車(人に乗せてもらう)」が 25.2%、「路線バス」が 14.0%、「タクシー」が 13.4%となっています。



外出する際の移動手段の上位3つ、「自動車(自分で運転)」、「徒歩」、「自動車(人に乗せてもらう)」について年齢別でみると、「自動車(自分で運転)」は、65歳～69歳では 80.5%ですが、高齢になるほど割合は低くなり 85歳以上では 14.5%となります。反対に「自動車(人に乗せてもらう)」は 65歳～69歳では 16.7%ですが、高齢になるほど割合は高くなり 85歳以上では 52.6%となります。「徒歩」については、どの年代もあまり変わらず2割～3割台となっています。

外出する際の移動手段-上位3つ (年齢別)

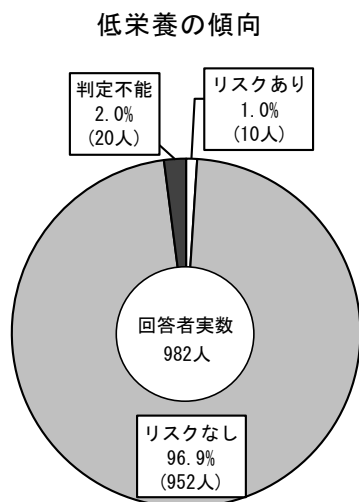


3. 食べることについて

(1) 低栄養の傾向（リスク者）

低栄養のリスク者は1.0%で非常に低くなっています。

対象者が10人のため参考となりますが、性別年齢別で見ると、男性に比べ女性が低栄養のリスク者が多い傾向にありますが、年齢の差は特にありません。



低栄養のリスク者（性別年齢別）

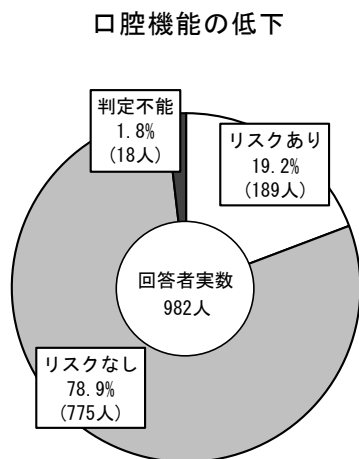
	男性	女性
65 歳～69 歳	0 人	2 人
70 歳～74 歳	1 人	2 人
75 歳～79 歳	0 人	0 人
80 歳～84 歳	2 人	1 人
85 歳以上	0 人	2 人
計	3 人	7 人

(2) 口腔機能低下

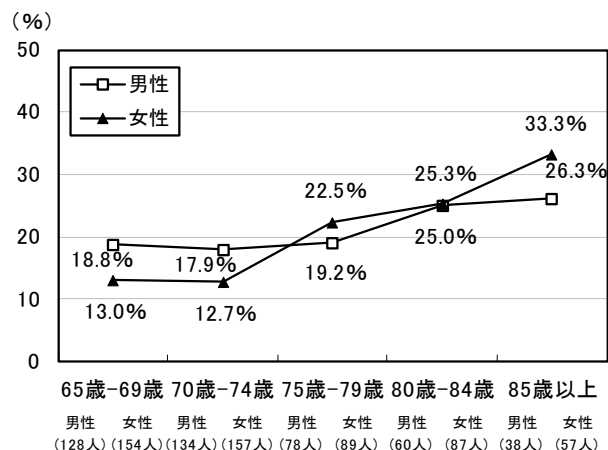
① 口腔機能の低下者（リスク者）

口腔機能のリスク者は19.2%となっています。

性別年齢別で見ると、比率は男女であまり差はなく、また年齢が上がるとともにリスク者の割合が上昇しております。男性は、65歳～69歳で18.8%、85歳以上で26.3%と7.5ポイント上昇に対し、女性は、65歳～69歳で13.0%、85歳以上で33.3%と20.3ポイントも上昇しています。高齢になるほど男性より女性のリスクが高くなる傾向にあります。



口腔機能のリスク者（性別年齢別）

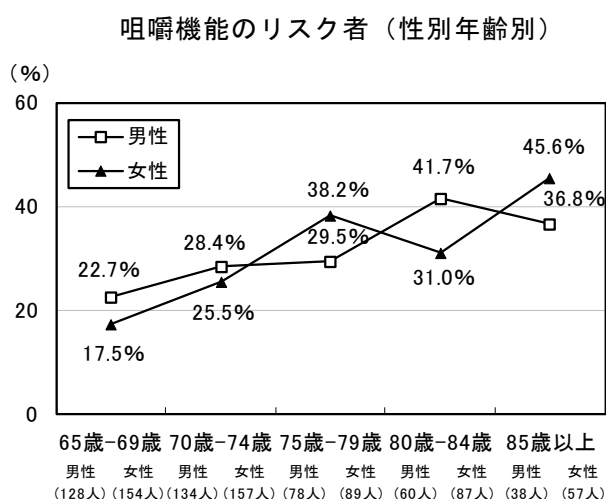
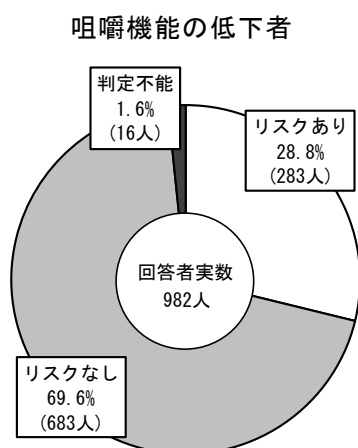


②咀嚼機能の低下者（リスク者）

口腔機能のうち、「半年前より固いものが食べにくくなったか」を尋ね、咀嚼機能の低下が疑われる高齢者を把握しました。

咀嚼機能のリスク者は28.8%となっています。

性別年齢別で見ると、64歳～69歳は男性のリスク者が高く、85歳以上では女性が高くなっています。64歳～69歳と85歳以上のポイント差は、男性が14.1ポイント、女性が28.1ポイント上昇しており、年齢が高くなるにつれ女性のリスクが高くなります。

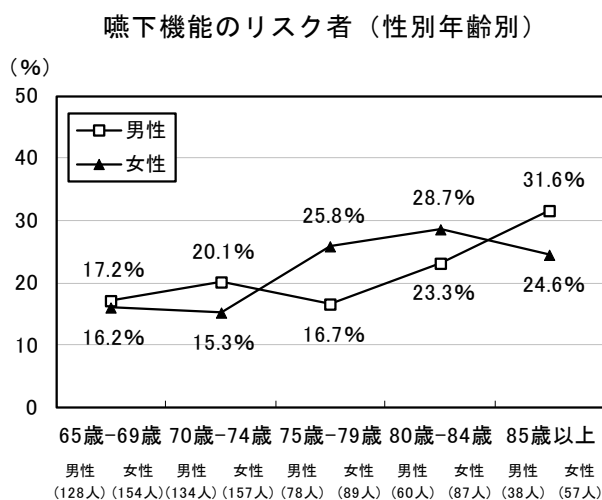
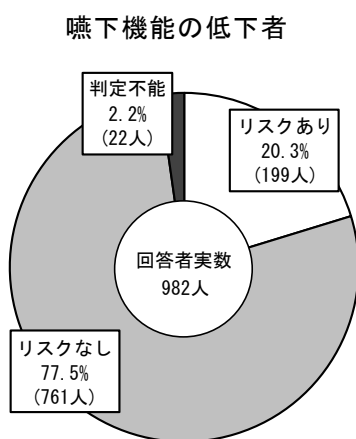


③嚥下機能の低下者（リスク者）

口腔機能のうち、「お茶等でむせることがあるか」を尋ね、嚥下機能の低下が疑われる高齢者を把握しました。

嚥下機能のリスク者は20.3%となっています。

性別年齢別で見ると、64歳～69歳は男性・女性の差はなく、85歳以上では男性が高くなっています。64歳～69歳と85歳以上のポイント差は、男性が14.4ポイント、女性が8.4ポイント上昇しており、年齢が高くなるにつれ男性のリスクが高くなります。

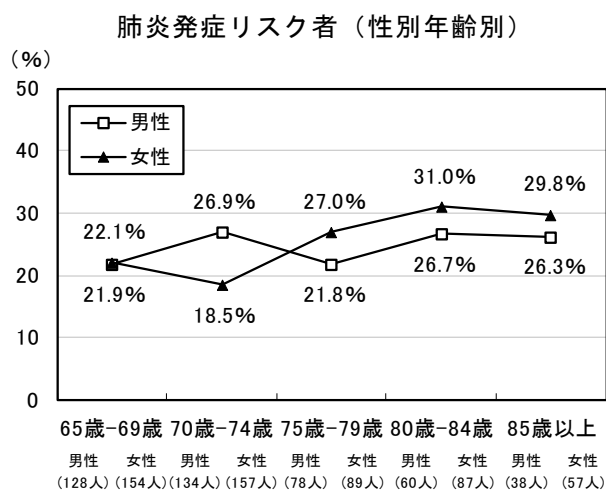
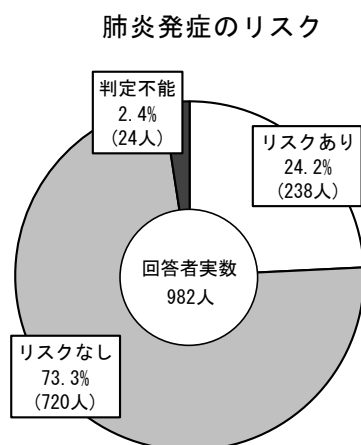


④肺炎発症リスク者

口腔機能のうち、「口の渇きが気になるか」を尋ね、肺炎発症リスクが疑われる高齢者を把握しました。

肺炎発症リスク者は24.2%となっています。

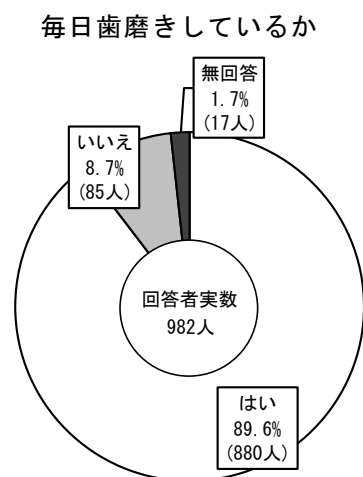
性別年齢別で見ると、男性・女性の差も年齢においても大きな差はみられません。



(3) 歯の健康

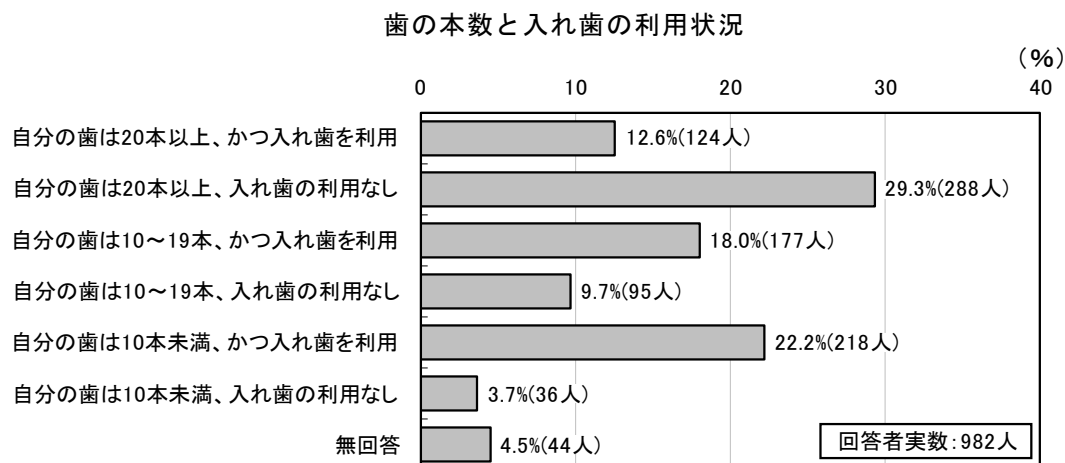
①歯磨きの習慣

毎日の歯磨きをしている人は89.6%を占めています。



②歯の本数と入れ歯の利用状況

歯の本数と入れ歯の利用について見ると、「自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし」が 29.3%で最も高くなっています。歯が 20 本以上ある人は 41.9%、入れ歯を利用していない人は 42.7%で、それぞれ 4 割台となっています。



年齢別に見ると、75 歳以上は「歯は 10 本未満で入れ歯を利用」が最も高く、年齢が上がるとともにこの割合が高くなっていく傾向にあり、65 歳～69 歳では 11.0%ですが、75 歳～79 歳には 25.1%、85 歳以上では 38.9%となっています。また、「歯は 20 本以上で入れ歯の利用なし」は、65 歳～69 歳で 42.2%と 4 割を占めていますが、75 歳～79 歳では 19.8%と 2 割を下回り、85 歳以上では 7.4%へと低下しています。

歯の数と入れ歯の利用状況（年齢別）

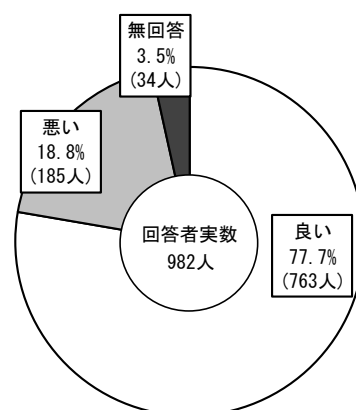
	回答者 実数	自分の歯は 20 本以上		自分の歯は 10～19 本		自分の歯は 10 本未満		無回答
		入れ歯を 利用	入れ歯の 利用なし	入れ歯を 利用	入れ歯の 利用なし	入れ歯を 利用	入れ歯の 利用なし	
65 歳～69 歳	282 人	13.5% (38 人)	42.2% (119 人)	17.4% (49 人)	9.9% (28 人)	11.0% (31 人)	4.3% (12 人)	1.8% (5 人)
70 歳～74 歳	291 人	10.7% (31 人)	32.6% (95 人)	18.6% (54 人)	10.0% (29 人)	22.7% (66 人)	2.4% (7 人)	3.1% (9 人)
75 歳～79 歳	167 人	13.2% (22 人)	19.8% (33 人)	21.0% (35 人)	10.8% (18 人)	25.1% (42 人)	3.6% (6 人)	6.6% (11 人)
80 歳～84 歳	147 人	15.0% (22 人)	23.1% (34 人)	12.2% (18 人)	10.2% (15 人)	28.6% (42 人)	4.1% (6 人)	6.8% (10 人)
85 歳以上	95 人	11.6% (11 人)	7.4% (7 人)	22.1% (21 人)	5.3% (5 人)	38.9% (37 人)	5.3% (5 人)	9.5% (9 人)

③噛み合わせは良いか

噛み合わせについて尋ねたところ、「はい(良い)」は 77.7%で、噛み合わせの問題がないと回答しています。

年齢別に見ると、「はい(良い)」は 65 歳～69 歳が 82.6%を占めるものの、85 歳以上では 66.3%となっています。

噛み合わせは良いか



噛み合わせは良いか（年齢別）

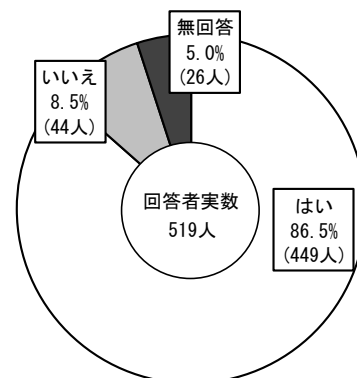
	回答者実数	良い	悪い	無回答
65 歳～69 歳	282 人	82.6% (233 人)	15.6% (44 人)	1.8% (5 人)
70 歳～74 歳	291 人	78.7% (229 人)	18.2% (53 人)	3.1% (9 人)
75 歳～79 歳	167 人	75.4% (126 人)	19.8% (33 人)	4.8% (8 人)
80 歳～84 歳	147 人	76.2% (112 人)	18.4% (27 人)	5.4% (8 人)
85 歳以上	95 人	66.3% (63 人)	29.5% (28 人)	4.2% (4 人)

④毎日入れ歯の手入れをしているか

毎日入れ歯の手入れをしているか尋ねたところ、「はい」が 86.5%、「いいえ」が 8.5%で、ほとんどの人が毎日手入れしていると回答しています。

年齢別に見ると、いずれも「はい」という回答が高く、85 歳以上では 94.2%を占めています。ほかの年代でも 80%台となっています。

毎日入れ歯の手入れをしているか



毎日入れ歯の手入れをしているか（年齢別）

	回答者実数	はい	いいえ	無回答
65 歳～69 歳	118 人	87.3% (103 人)	8.5% (10 人)	4.2% (5 人)
70 歳～74 歳	151 人	84.1% (127 人)	9.9% (15 人)	6.0% (9 人)
75 歳～79 歳	99 人	83.8% (83 人)	9.1% (9 人)	7.1% (7 人)
80 歳～84 歳	82 人	86.6% (71 人)	9.8% (8 人)	3.7% (3 人)
85 歳以上	69 人	94.2% (65 人)	2.9% (2 人)	2.9% (2 人)

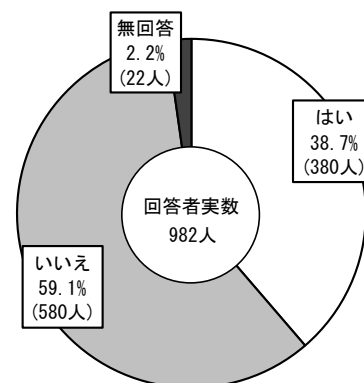
(4) 歯科医院の受診

① 歯科医院の受診状況

歯科医院を受診しているか尋ねたところ、「はい」が 38.7%、「いいえ」が 59.1%となっており、4 割近くの方が歯科を受診しています。

リスク者割合との関係を見ると、歯科医院を受診していないと回答した人では、「I A D L の低下」、「知的能動性の低下」、「社会的役割の低下」の項目で、リスク者割合が歯科医院を受診している人よりも顕著に高くなっています。

歯科医院の受診状況



リスク者割合の比較（歯科医院の受診別）

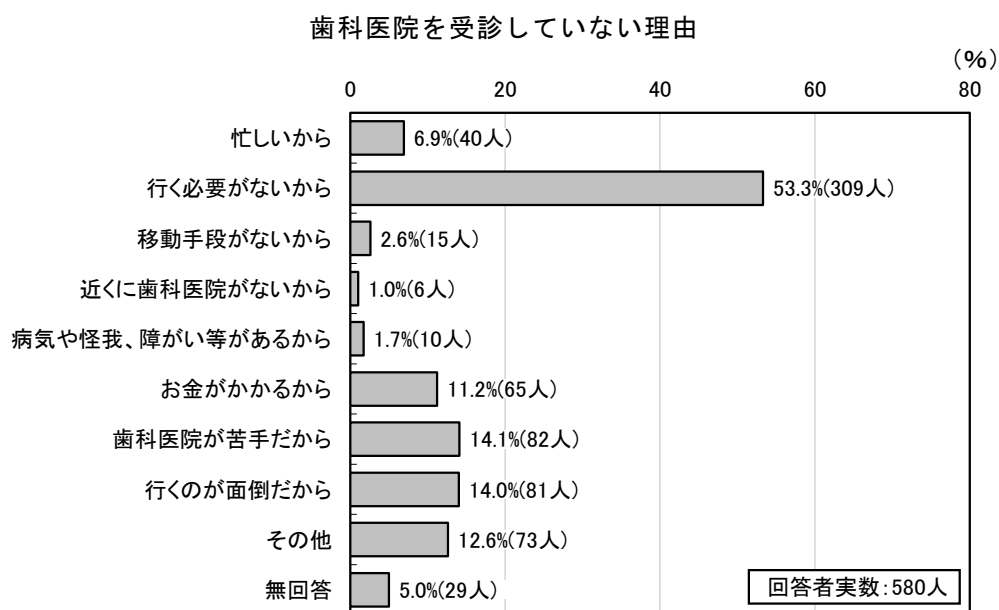
	回答者実数	総合事業	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
はい (受診している)	380 人	26.3% (100 人)	13.9% (53 人)	28.7% (109 人)	17.9% (68 人)	0.5% (2 人)	19.2% (73 人)
いいえ (受診していない)	580 人	25.9% (150 人)	15.3% (89 人)	25.5% (148 人)	20.0% (116 人)	1.4% (8 人)	19.5% (113 人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	I A D L の低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
はい (受診している)	380 人	33.9% (129 人)	39.5% (150 人)	8.9% (34 人)	32.1% (122 人)	49.2% (187 人)
いいえ (受診していない)	580 人	36.7% (213 人)	34.8% (202 人)	20.2% (117 人)	41.9% (243 人)	59.3% (344 人)

②歯科医院を受診していない理由

「いいえ」と答えた人に歯科医院を受診していない理由について尋ねると、「行く必要がないから」が53.3%と圧倒的に高くなっています。「歯科医院が苦手だから」が14.1%、「行くのが面倒だから」が14.0%、「お金がかかるから」が11.2%となっています。

また、「その他」が12.6%(73人)ありますが、58.9%(43人)の記述が「定期的に通っている」「治療終了」等の理由です。16.4%(12人)は、「新型コロナの感染予防」を理由としています。そのほか、「どの歯科医院が良いかわからない」「長にかかる」「自分で予約がとれない」「虫歯を治療しないでやたら抜きたがる」等になります。



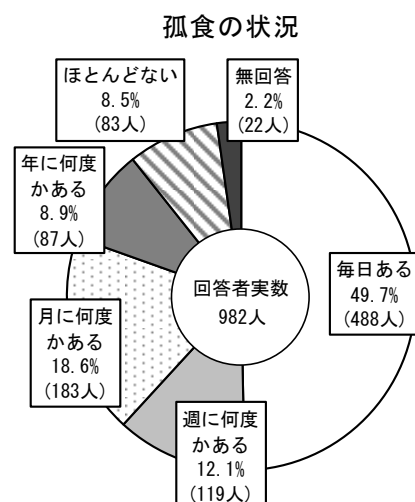
(5) 孤食の状況

だれかと食事をともにする機会の有無を尋ね、孤食の状況を把握しました。

誰かと食事をともにする機会がどの程度あるか尋ねたところ、「毎日ある」が 49.7%で約半数を占めています。

「週に何度かある」は 12.1%で、これら 2つを合わせると、比較的共食できる状況にある高齢者は 6 割程度となっています。反対に「年に何度かある」が 8.9%、「ほとんどない」が 8.5%で、孤食にある高齢者が 17.4%であるほか、「月に何度かある」の 18.6%も合わせると、孤食または孤食傾向にある高齢者が 36.0%と 3 割半ばを占めています。

性別で見ると、孤食の高齢者は男性が 19.2%、女性が 15.8%で、やや男性の方が高くなっています。また、年齢別で見ると、「毎日ある」の割合は年齢が上がるとともに下がる傾向にあり、また 85 歳以上では「ほとんどない」が 18.9%で、ほかの年齢よりも孤食の割合が高くなっています。



孤食の状況（性別、年齢別）

	回答者実数	毎日ある	週に 何度かある	孤食傾向の高齢者			無回答
				月に 何度かある	孤食の高齢者		
					年に 何度かある	ほとんどない	
男性	438 人	52.7% (231 人)	9.6% (42 人)	16.0% (70 人)	9.8% (43 人)	9.4% (41 人)	2.5% (11 人)
女性	544 人	47.2% (257 人)	14.2% (77 人)	20.8% (113 人)	8.1% (44 人)	7.7% (42 人)	2.0% (11 人)
65 歳～69 歳	282 人	57.8% (163 人)	9.2% (26 人)	18.4% (52 人)	5.3% (15 人)	8.5% (24 人)	0.7% (2 人)
70 歳～74 歳	291 人	53.6% (156 人)	13.4% (39 人)	19.2% (56 人)	7.2% (21 人)	5.5% (16 人)	1.0% (3 人)
75 歳～79 歳	167 人	44.3% (74 人)	12.6% (21 人)	16.8% (28 人)	13.2% (22 人)	9.0% (15 人)	4.2% (7 人)
80 歳～84 歳	147 人	40.1% (59 人)	13.6% (20 人)	21.8% (32 人)	15.0% (22 人)	6.8% (10 人)	2.7% (4 人)
85 歳以上	95 人	37.9% (36 人)	13.7% (13 人)	15.8% (15 人)	7.4% (7 人)	18.9% (18 人)	6.3% (6 人)

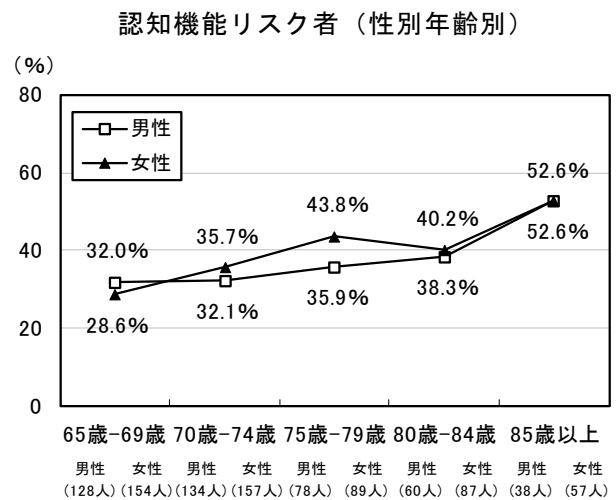
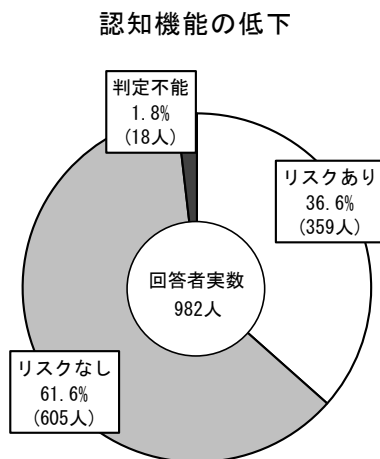
4. 毎日の生活について

(1) 認知機能

① 認知機能の低下者（リスク者）

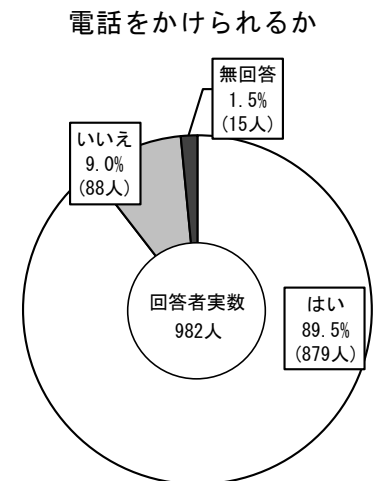
認知機能のリスク者は 36.6% となっています。

性別年齢別で見ると、男女差による大きな差は見られませんが、65 歳～69 歳では男女とも 3 割前後ですが、85 歳以上では男性・女性ともに 5 割余りとなり、年齢が上がるとともにリスク者の割合が上昇しています。



② 電話をかけられるか

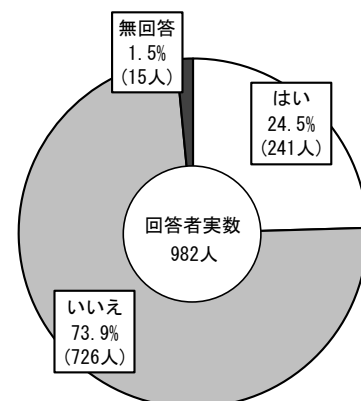
認知機能に関連して、自分で電話番号を調べて電話をかけられるか尋ねたところ、「はい(かけられる)」が 89.5%、「いいえ(かけられない)」が 9.0% となっています。



③日付がわからない時があるか

認知機能に関連して、今日の日付がわからないときがあるか尋ねたところ、「はい(わからない時がある)」が24.5%、「いいえ(わからない時はない)」が73.9%となっています。

日付がわからない時があるか



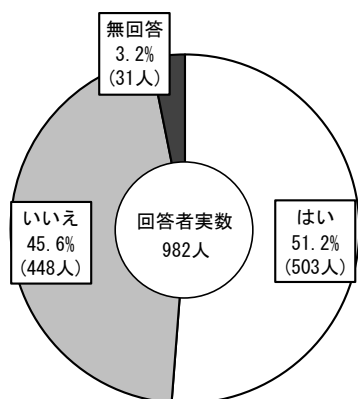
④物をしまった場所がわからなくなることがあるか（独自項目）

認知機能に関連して、物をしまった場所がわからなくなることがあるか尋ねました。

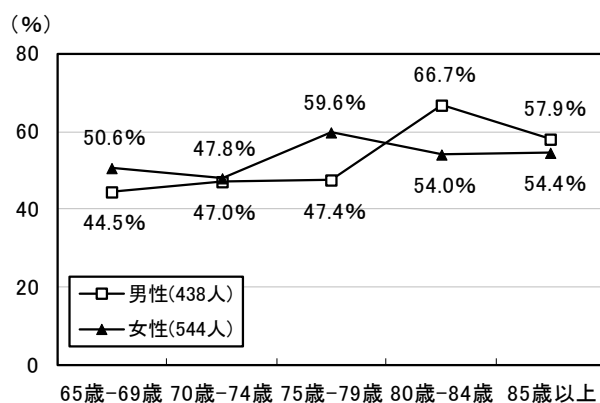
「はい(わからなくなることがある)」は51.2%、「いいえ(わからなくなることはない)」が45.6%で、「はい」が「いいえ」を僅かながら上回っています。

性別年齢別で見ると、高齢になるほど男性が「はい(わからなくなることがある)」の割合が高い傾向となっています。

物をしまった場所が
わからなくなることがあるか



物をしまった場所がわからなくなる
人の割合（性別年齢別）

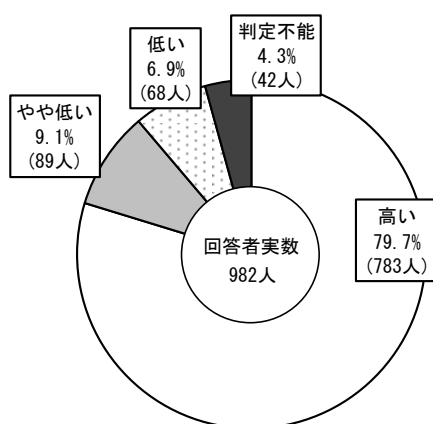


(2) I A D L の低下者（リスク者）

買い物や洗濯・掃除等といった「手段的日常生活動作」である I A D L は、「やや低い」「低い」を足した「低下者」をリスク者とし、16.0%で1割半ばとなっています。

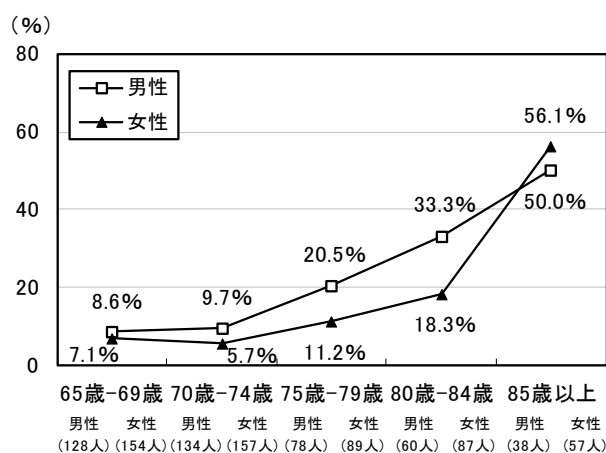
性別年齢別で見ると、80 歳～84 歳までは男性が高く、85 歳以上では女性のリスク者が高い傾向にあります。また、年齢が上がるとともにリスク者の割合が上昇する傾向となっており、65 歳～69 歳と 85 歳以上のポイント差は、男性が 41.4 ポイント、女性が 49.0 ポイントと大きく上昇し、女性は 80 歳～84 歳と 85 歳以上のポイント差が、37.8 ポイントと急激に上昇しています。

I A D L の低下



※「やや低い」＋「低い」＝低下者（リスクあり）

I A D L リスク者（性別年齢別）

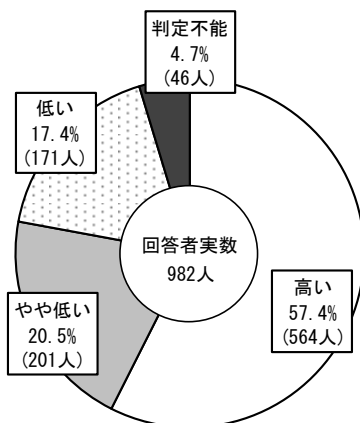


(3) 知的能動性の低下者（リスク者）

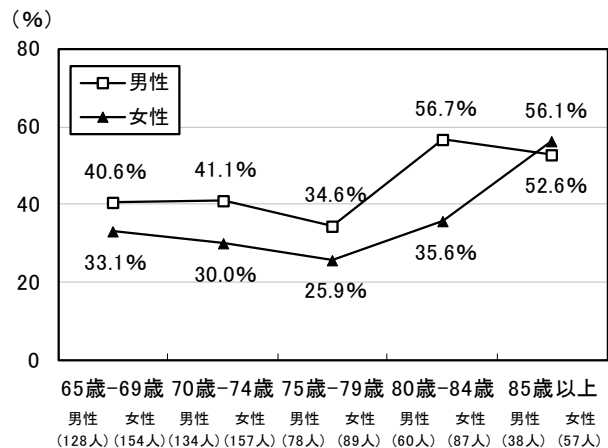
「新聞や雑誌等を読んでいるか」、「書類はかけるか」などの能力である知的能動性は「やや低い」「低い」を足した「低下者」をリスク者とし、37.9%で4割近くとなっています。

性別年齢別で見ると、リスク者の割合は、男性が80歳～84歳まで高く、85歳以上では女性が高くなります。女性は75歳～79歳まで減少しますが、その後上昇し85歳以上では56.1%になります。

知的能動性の低下



知的能動性のリスク者（性別年齢別）



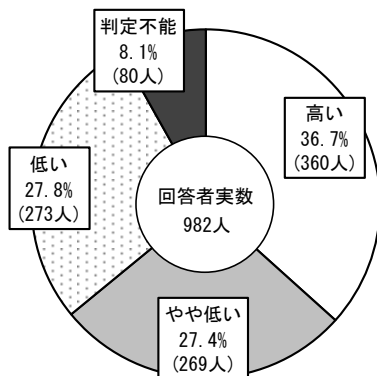
※「やや低い」＋「低い」＝低下者（リスクあり）

(4) 社会的役割の低下者（リスク者）

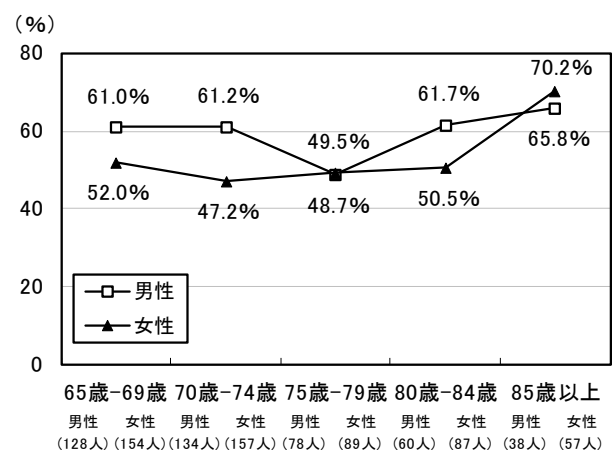
「友人の家を訪問するか」、「若者に話しかけるか」などの能力である社会的役割は「やや低い」「低い」を足した「低下者」をリスク者とし、55.2%で5割半ばとなっています。

性別年齢別で見ると、リスク者の割合は80歳～84歳までは概ね男性が高く、85歳以上では、僅かながら女性が男性を上回っています。

社会的役割の低下



社会的役割リスク者（性別年齢別）

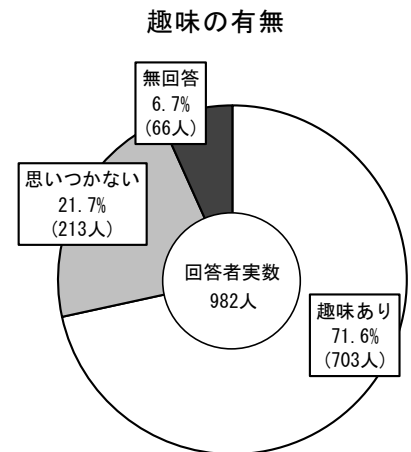


※「やや低い」＋「低い」＝低下者（リスクあり）

(5) 趣味や生きがい

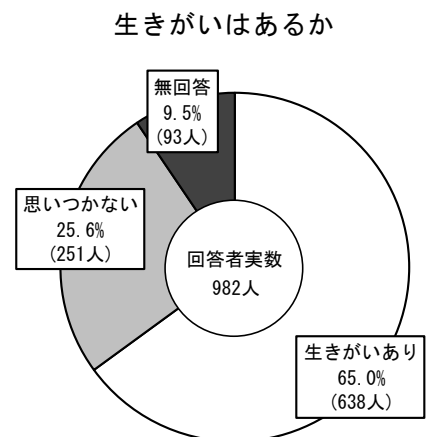
①趣味の有無

趣味があるか訪ねたところ、「趣味あり」が71.6%、「思いつかない」が21.7%となっています。ほとんどの高齢者が趣味を持っていることがわかります。



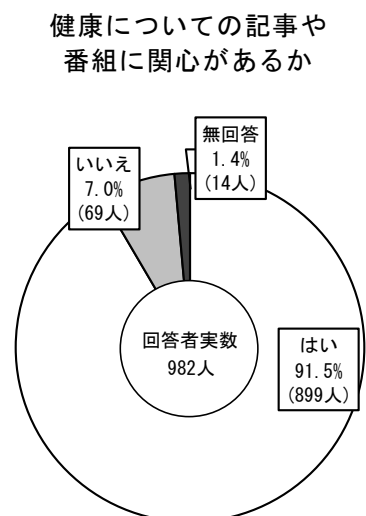
②生きがいはあるか

生きがいがあるか訪ねたところ、「生きがいがある」は65.0%、「思いつかない」が25.6%となっています。生きがいのある高齢者が大半を占めていることがわかります。



③健康についての記事や番組に関心があるか

健康についての記事や番組に関心があるか訪ねたところ、「はい」は91.5%となり、関心のある高齢者が大半を占めていることがわかります。



5. 地域での活動について

(1) 社会参加

社会参加の程度について尋ねたところ、「参加していない」という回答割合が非常に高く、全
てにおいて4割～5割となっており、特にボランティアのグループ、学習・教養サークル、介
護予防のための通いの場、老人クラブは5割を超えています。全般的に社会参加活動や就労等
を行っていない高齢者が多くを占めていることがわかります。

社会参加を「週4回以上」行っているという回答では、「収入のある仕事」がやや高く、13.1%
となっています。「年に数回」は自治会の回答が比較的高くなっています。

社会参加

	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加して いない	無回答
ボランティアのグループ	0.7% (7人)	1.1% (11人)	1.9% (19人)	3.1% (30人)	4.2% (41人)	52.4% (515人)	36.6% (359人)
スポーツ関係のグループ やクラブ	4.3% (42人)	6.9% (68人)	4.3% (42人)	4.1% (40人)	2.7% (27人)	44.4% (436人)	33.3% (327人)
趣味関係のグループ	1.7% (17人)	4.2% (41人)	5.8% (57人)	7.6% (75人)	5.4% (53人)	43.0% (422人)	32.3% (317人)
学習・教養サークル	0.3% (3人)	1.1% (11人)	1.4% (14人)	1.9% (19人)	3.9% (38人)	51.4% (505人)	39.9% (392人)
介護予防のための通いの場	1.3% (13人)	2.3% (23人)	4.8% (47人)	1.6% (16人)	1.6% (16人)	52.0% (511人)	36.3% (356人)
老人クラブ	0.3% (3人)	0.8% (8人)	1.0% (10人)	1.3% (13人)	1.6% (16人)	57.0% (560人)	37.9% (372人)
町内会・自治会	0.6% (6人)	0.3% (3人)	0.9% (9人)	4.4% (43人)	9.2% (90人)	48.5% (476人)	36.2% (355人)
収入のある仕事	13.1% (129人)	5.9% (58人)	0.8% (8人)	1.5% (15人)	1.4% (14人)	42.8% (420人)	34.4% (338人)

※回答者実数＝982人

※介護予防のための通いの場（地域ミニデイ、骨コツ貯筋運動教室、マシントレーニング教室、脳がんじゅう教室、健康料理教室 等）

(2) 地域づくりへの参加意向

①地域づくりへ参加者として参加したいか

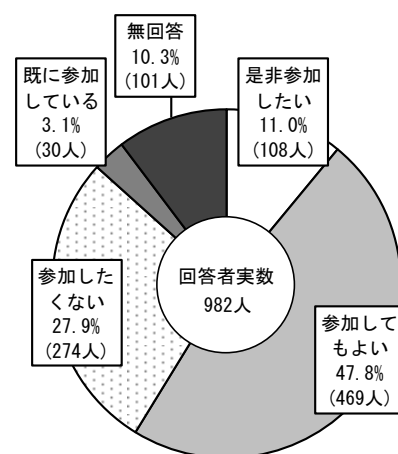
地域づくりへの参加意向を尋ねたところ、「是非参加したい」は11.0%、「参加してもよい」は47.8%で、これらを合わせると参加意向は58.8%となっています。

性別で見ると、男女とも「参加してもよい」が4割台ですが、やや男性の方が高いです。また、「是非参加したい」は男性が8.7%、女性が12.9%で女性の方がやや高くなっています。「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせると、参加意向は男性が58.5%、女性が59.0%となり、若干女性の方が高くなっています。

年齢別に見ると、「参加してもよい」の割合は年代が上がるとともに減少する傾向となっており、「参加してもよい」の割合は特に85歳以上ではそれ以前の年代よりも減少が大きくなっています。「参加してもよい」の割合は、65歳～69歳が48.9%ですが、80歳以上では36.8%となります。

圏域別では、大きな差は見られませんが、「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた参加意向は、東部が60.8%、西部が56.6%と東部が僅かながら高くなっています。

地域づくりへ
参加者として参加したいか



地域づくりへ参加者として参加したいか（性別、年齢別、圏域別）

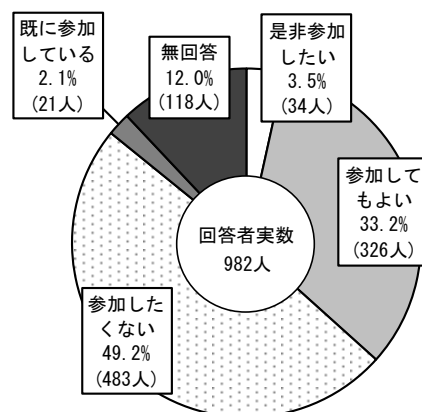
	回答者実数	是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	既に参加している	無回答
男性	438 人	8.7% (38 人)	49.8% (218 人)	29.5% (129 人)	3.4% (15 人)	8.7% (38 人)
女性	544 人	12.9% (70 人)	46.1% (251 人)	26.7% (145 人)	2.8% (15 人)	11.6% (63 人)
65 歳～69 歳	282 人	9.2% (26 人)	48.9% (138 人)	31.6% (89 人)	1.8% (5 人)	8.5% (24 人)
70 歳～74 歳	291 人	12.4% (36 人)	54.3% (158 人)	24.4% (71 人)	2.1% (6 人)	6.9% (20 人)
75 歳～79 歳	167 人	13.2% (22 人)	46.1% (77 人)	25.1% (42 人)	4.2% (7 人)	11.4% (19 人)
80 歳～84 歳	147 人	10.2% (15 人)	41.5% (61 人)	28.6% (42 人)	5.4% (8 人)	14.3% (21 人)
85 歳以上	95 人	9.5% (9 人)	36.8% (35 人)	31.6% (30 人)	4.2% (4 人)	17.9% (17 人)
東部	498 人	10.4% (52 人)	50.4% (251 人)	25.5% (127 人)	3.4% (17 人)	10.2% (51 人)
西部	484 人	11.6% (56 人)	45.0% (218 人)	30.4% (147 人)	2.7% (13 人)	10.3% (50 人)

②地域づくりへ企画・運営として参加したいか

地域づくりへ企画・運営として参加したいかを尋ねたところ、「是非参加したい」は3.5%、「参加してもよい」は33.2%で、これらを合わせると企画・運営への参加意向は36.7%となっています。前項の地域づくりへの参加意向(58.8%)と比べて低いことがわかります。

圏域別で見ると、「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた企画・運営への参加意向は、東部が37.9%、西部が35.3%で、東部が僅かながら高くなっています。

地域づくりへ
企画・運営として参加したいか



地域づくりへ企画・運営として参加したいか (圏域別)

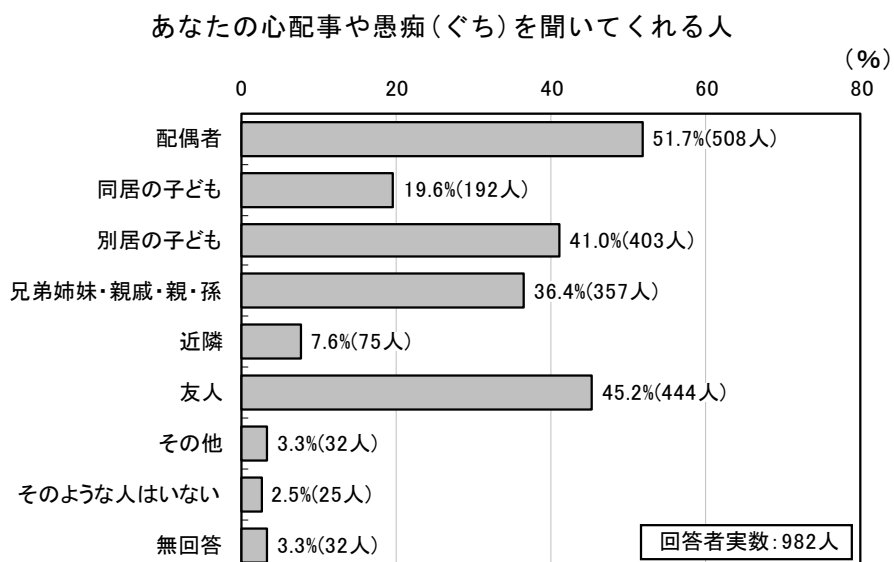
	回答者実数	是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	既に参加している	無回答
東部	498 人	3.4% (17 人)	34.5% (172 人)	47.8% (238 人)	2.4% (12 人)	11.8% (59 人)
西部	484 人	3.5% (17 人)	31.8% (154 人)	50.6% (245 人)	1.9% (9 人)	12.2% (59 人)

6. たすけあいについて

(1) たすけあいの状況

① 心配事や愚痴を「聞いてくれる人」

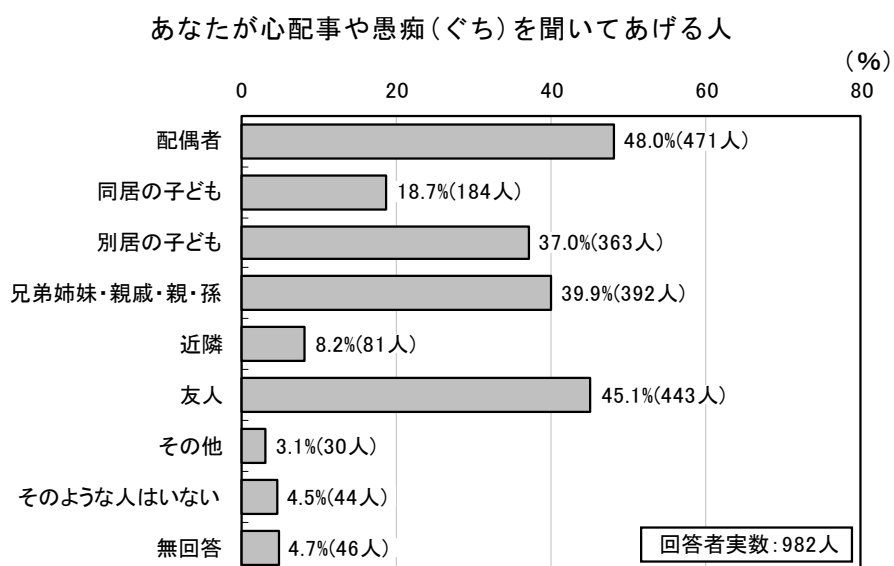
心配事や愚痴を聞いている人について尋ねたところ、「配偶者」が 51.7%と最も高く、続いて、「友人」が 45.2%、「別居の子ども」が 41.0%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 36.4%となっています。



② 心配事や愚痴を「聞いてあげる人」

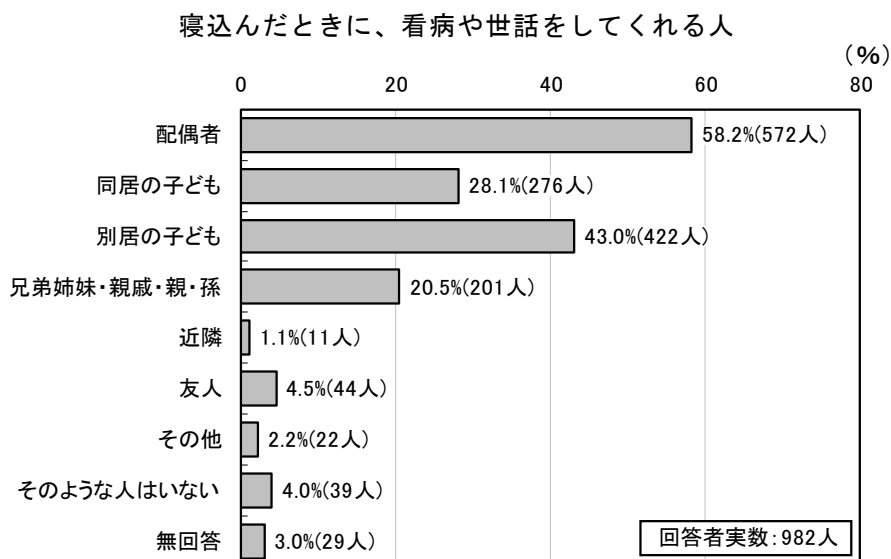
上記項目とは反対に、心配事や愚痴を聞いてあげる人について尋ねたところ、概ね「聞いてくれる人」の集計結果と同様の割合となっています。

「配偶者」が 48.0%、「友人」が 45.1%の2つが4割を超え、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 39.9%、「別居の子ども」も 37.0%で比較的高くなります。



③寝込んだときに看病や世話を「してくれる人」

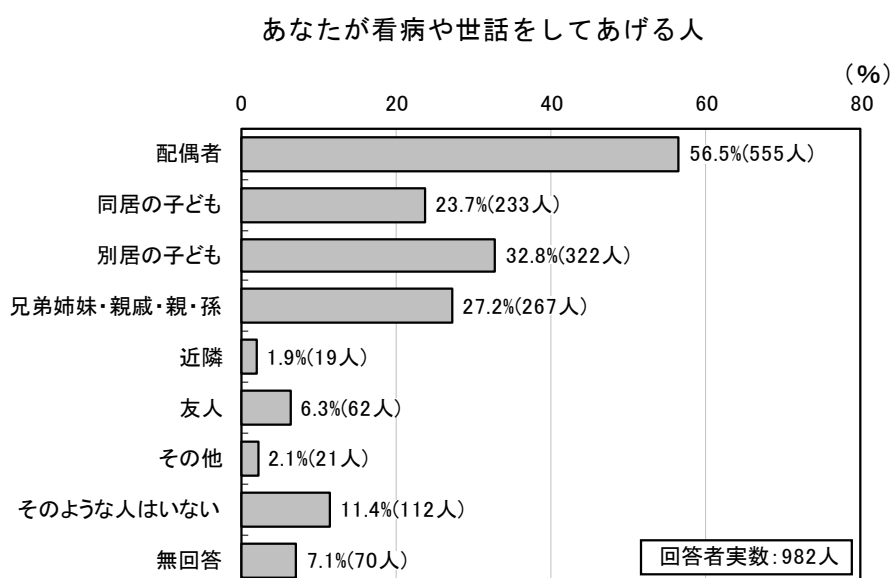
寝込んだときの看病や世話をしてくれる人について尋ねたところ、「配偶者」が 58.2%と 6 割近くを占め、次いで、「別居の子ども」が 43.0%となっており、これら 2 つが特に高くなっています。また、「同居の子ども」が 28.1%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 20.5%となっています。



④寝込んだときに看病や世話を「してあげる人」

上記項目とは反対に、寝込んだときの看病や世話をしてあげる人について尋ねました。

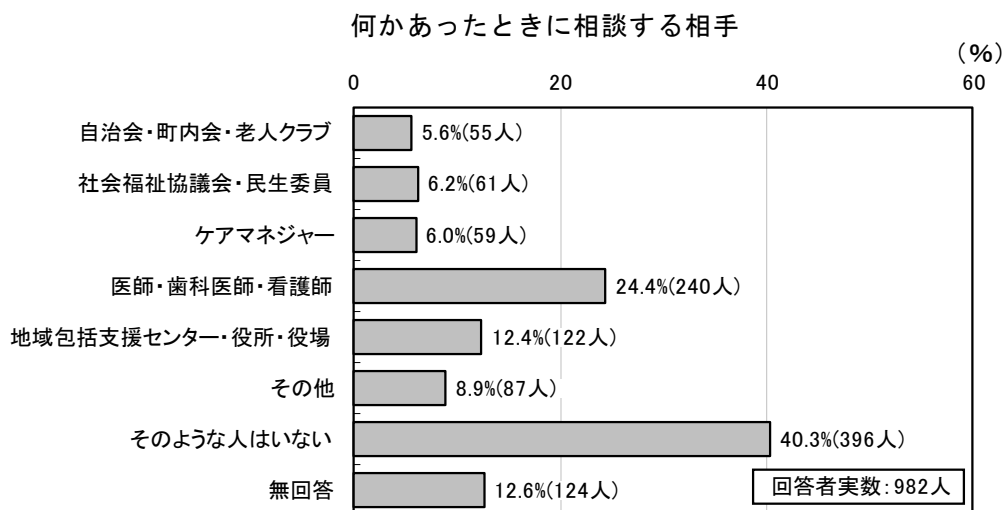
「配偶者」が 56.5%と半数を占め最も高くなっています。また、「別居の子ども」が 32.8%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 27.2%、「同居の子ども」の 23.7%と続いています。



⑤家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手

家族や友人・知人以外での相談相手について見ると、「医師・歯科医師・看護師」が 24.4% で他の項目より高いほか、「地域包括支援センター・役所・役場」が 12.4% で比較的高くなっています。

しかし、「そのような人はいない」という回答が本設問で最も高く 40.3% を占めています。

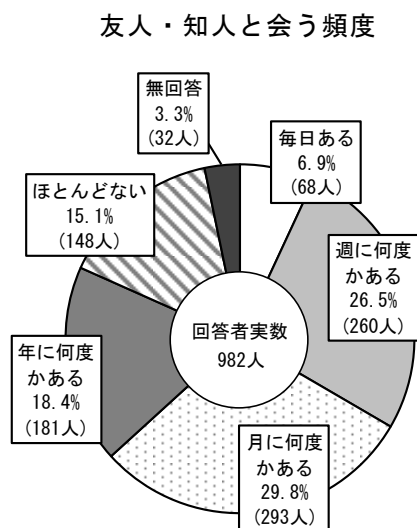


(2) 友人、知人との交流

①友人、知人と会う頻度

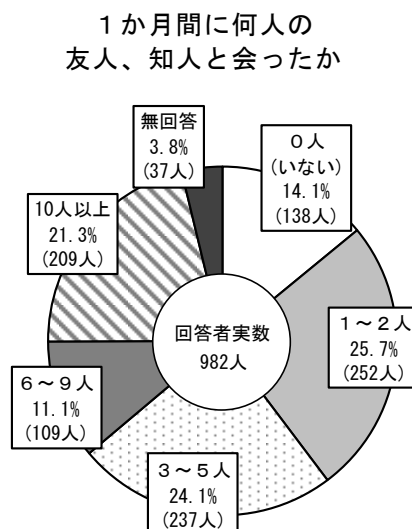
友人、知人と会う頻度は、「毎日ある」が 6.9%、「週に何度かある」が 26.5% で、これらを合わせると 3 割半ばとなります。また、「月に何度かある」が 29.8% で、ここまでの回答を合わせると 63.2% で、友人・知人と会う機会が比較的高齢者が 6 割を占めます。

反対に、「ほとんどない」が 15.1%、「年に何度かある」が 18.4% で、合わせると 33.5% となり、3 人に 1 人は友人・知人とあまり会う機会がないことがわかります。



② 1 か月間に何人の友人、知人と会ったか

この1か月の間に、何人の友人、知人に会ったかを尋ねたところ、「1～2人」が25.7%で最も高く、「3～5人」が24.1%、「10人以上」が21.3%でこれに続いています。



③ よく会う友人、知人との関係

よく会う友人、知人はどんな関係の人か尋ねたところ、「仕事での同僚・元同僚」が32.7%で最も高く、次いで「近所・同じ地域の人」が32.5%、「趣味や関心が同じ友人」が32.3%となり、ほぼ同率となります。そのほか、「学生時代の友人」が23.6%で2割台となっています。

